

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	令和7年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会		
開催日時	令和8年3月24日（火） 10時00分から11時25分		
開催場所	町民センター3階 講義室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>【出席者】</p> <p>&lt; 委員 &gt;</p> <p>山崎俊裕（委員長）、森一光（副委員長）水田敏弘、高橋伸隆、白井浩美、山口明伸、茅野英一</p> <p>&lt; 事務局 &gt; 資産経営課</p> <p>杉崎圭太（課長）、芳賀俊介（主査）、喜々津雪羽（主任主事）          亀山里緒（主事）、浅沼智也（主事）</p> <p>【欠席者】 なし</p> <p>【傍聴者】 1名</p>		
議 題	<p>(1) 委員長及び副委員長の選出</p> <p>(2) 議事録承認委員の指名</p> <p>(3) 公共施設等総合管理計画の進捗状況について</p>		
決定事項	無し		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合 その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>○開会</p> <p>【杉崎資産経営課長】</p> <p>本日は大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。ただ今より令和7年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会を始めさせていただきます。議題に入ります前に、皆様に3点お願いがございます。</p> <p>1点目は、本委員会の内容は、寒川町自治基本条例第15条に規定する「会議公開の原則」に該当する会議となっております。</p> <p>そのため、会議の傍聴、議事録の公開が原則となりますので、ご理解の程お願いいたします。</p>		

2点目は、議事録作成の為に録音させて頂きたいと存じます。こちらにつきましてもご理解くださいますようお願いいたします。

最後に3点目としまして、本日は1名の傍聴者がお見えになっております。傍聴の方に入出頂きたいと思いますがよろしいでしょうか。

「はい」の声

( 傍聴者 入室 )

続きまして、ここから、「次第の2」の「議題」に入りますが、以降の進行につきましては、山崎委員長をお願いしたいと思います。

それでは、山崎委員長、よろしく願いいたします。

## **議題**

### **(1) 議事録承認委員の指名**

#### **【山崎委員長】**

それでは、会議次第に沿って、議事を進めてまいりますので、委員の皆さまにつきまして、どうぞ、よろしく願いいたします。

それでは、議題(1)の議事録承認委員の指名になります。この議事録承認委員は、「事務局から議事録のテープ起こし後の原稿が送られてきて、その内容に誤りがないかご確認頂き、公表するにあたっての承認を頂くこと」をお願いし、会議ごとに委員をお願いをしているところでございます。

今回の議事録承認委員につきましては、前回は、水田委員でした。本日は、茅野委員をお願いしたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

#### **【茅野委員】**

はい。

#### **【山崎委員長】**

それでは、よろしく願いいたします。

### **(2) 公共施設等総合管理計画の進捗状況について**

#### **【山崎委員長】**

続きまして、議題の2つ目であります、(2)「公共施設再編計画の進捗状況について」、を議題といたします。

議題の（２）につきましては、公共施設等総合管理計画の実行プランであります、公共施設再編計画の個別施設ごとの対策実施事項における令和７年度の取り組み状況及び令和８年度の事業計画等についての報告となります。

それでは、事務局より説明をお願いいたします。

～～事務局 資産経営課杉崎課長より資料に基づき説明～～

**【山崎委員長】**

事務局からの説明が終わりました。

ただ今の議題につきましては、公共施設再編計画の工程表に基づき、令和７年度の対策事業の取り組み状況及び令和８年度の事業計画のほか、公共施設再編計画の次期改定方針についての説明がありました。それでは、委員の皆様よりご質問やご意見等をお受けしたいと思えます。ご意見等、ありますでしょうか。

まずは私のほうから。まず、学校でもそうですし、LEDの照明を導入するというようなことでずっとやられていると思うのですが、LEDの照明というのは、機器そのもの全体の交換はされずに、球の部分だけなのですか。LEDに特化した形で、機器も交換をしたほうが良いと思えますが。

**【杉崎資産経営課長】**

機器も含めて交換します。

**【山崎委員長】**

わかりました。あと、イニシャルコストに対して、ランニングコストがどれぐらい低減されたか、効果の評価はできるものでしょうか。

**【杉崎資産経営課長】**

蛍光灯の製造が無くなってしまうので学校もLED化を進めていくこととしており、コスト評価を行うことまでは行っていません。庁舎はLED化が済んでおり、その際のコスト評価では十分評価できているので、学校に関してもランニングコストが低減されるものとの解釈です。

**【水田委員】**

説明いただいた中の19ページの役所庁舎の空調修繕工事費の設計に

ついて、元々1千万ぐらいの設計予算でしたのが、職員による設計で不用になったとあります。これはとてもいいことだと思うのですが、これは専門職の人が入ったからでしょうか。それとも、もともといる職員の方が空調の設計をできるということでしょうか。

【杉崎資産経営課長】

もともと建築技術職の職員がおりまして、その職員が設計することになっています。

【水田委員】

そうですか。そのために入っているのであれば、もともと設計費用を見積もる必要がなかったとか、そういったことはないのですか。

【杉崎資産経営課長】

内部事情になりますが、予算を確保したときの担当課長は私でした。公共施設マネジメントもやりながら、庁舎管理の課長も当時やっておりました。当課の建築技術職員は現在、健康管理センターや宮山の出張所も担当し、それから、再編計画のほかの工事がかなり進んできているので、その建築技術職が2人とも大分多忙になっていまして、外注できるものは外に出したいと思い、当時予算を取りました。もう一度、今年に入って精査したところ、職員での設計ができるだろうとのことで不要となりました。

【水田委員】

すごくいいことですね。内部でできるのであれば、そのための技術職の方ですからね。

【山崎委員長】

非常によいコストダウンですね。

19 ページのところの内線電話のコードレス化でPHSを入れられるということなのですが、IP電話みたいな形ではないのですか。

【杉崎資産経営課長】

IPではなくPHSです。

【山崎委員長】

PHSでずっと運用されるということなのですね。

**【杉崎資産経営課長】**

はい。広報の4月号に掲載しますが、ダイヤルインを寒川町役場も取り入れることにしまして、各課に直通の電話番号ができます。あと、カスハラ対策に録音機能もついています。

**【山崎委員長】**

あと、空調の話がありましたけれども、学校の体育館には空調が入るという話がありました。基本的なことでは申し訳ございません。教室のほうはもう既に全ての学校に空調が入っていますか。

**【杉崎資産経営課長】**

はい、入っています。体育館に空調を入れるのは災害対策でもありません。猛暑が続いていますので、いつ何が起こるかわかりませんので計画的に入れていくこととしています。

**【山崎委員長】**

分かりました。

**【高橋委員】**

色々な実施計画・実績のご報告いただきましたが、その中で、集会所の問題については前からこの会議の中で、やり方としては3通りあると聞いています。集会所12か所のそれぞれの考え方や状況が違うと思うのですが、そのあたりの打合せや調整に令和7年度から入っているのかどうか、お聞かせください。

**【杉崎資産経営課長】**

令和7年度から入ってというよりも、計画作成時から町民協働課が自治会長さんや連絡協議会の場で情報提供していただいているという状況です。ただ、自治会によっては、毎年会長が代わってしまうということがありますので、話が進んだり進まなかったりしている状況はあると聞いています。

**【高橋委員】**

個々の集会所をどうするというのではなく、自治連の中にも集会所運

営委員会があります。その中での大きな流れの合意というか、方針は動いているのですか。

【杉崎資産経営課長】

計画作成時から打合せはしており、承認は得ています。

【高橋委員】

学校の複合化というものの理解がまだ十分できていないような気もしていたので、そのあたりがどうなっているかなと思ひまして確認しました。

【山崎委員長】

令和8年度の計画とも関わる話で、これからの話ですよ。複合化をどういう形で進めるかというのは、本質的な話として非常に大事なところかなと思ひますけれども、これまでの委員会の中でも随分そのあたりは議論されてきたところかなと思ひます。令和8年度の施設整備や複合化に関して、またご意見いただければと思ひます。

宮山の出張所ですが、インフレスライドで契約の額が増加しているということで、リーズナブルな金額だとは思ひのですが、デザインビルドで事業者を選定しました。中の備品など、そういったものは当初提案されたもの通りなのでしょうか。建築本体以外のところの予算というのはあまり変わりありませんか。

【杉崎資産経営課長】

特に備品については聞いておりません。

【山崎委員長】

これは備品も全部込みの金額なのでしょうか。

【杉崎資産経営課長】

建物に付随しているもの以外の備品、例えばロッカーやテーブルなどは別予算です。

【山崎委員長】

分かりました。ありがとうございます。

**【杉崎資産経営課長】**

先日、予備検査に立会いで行ってきました。非常にきれいで、今後、ここで執務できるのがすごく羨ましいなと思うぐらい、きれいで立派な建物ができていました。この写真の右側に出っ張っている部分は放水の訓練をする場所となっています。

**【山崎委員長】**

分かりました。色々審査で議論もあったところかと思えますけれども、よい施設が整備されたということで、大変良いと思えます。

前段の令和7年度の取組状況ということに関して、他にございませんでしょうか。関連して、令和8年の事業計画等があるかなと思えますので、そちらでまた関連しながら御意見いただいてもよろしいと思えますが、令和8年度の事業計画、あるいは改定方針についてご意見いただければと思えますが、いかがでしょうか。

**【臼井委員】**

最後の43ページのところに、議論の場にAIを導入して、対話を通して議論を深めるというところがあるのですが、色々まだ勉強不足のところがあるので、どんなイメージになるのか教えて頂きたいです。

**【山崎委員長】**

これは気になる場所ですね。

**【杉崎資産経営課長】**

イメージとしては、町の様々なアンケート調査や、eマーケティングなどを全部AIに読み込ませて、その読み込ませたAIと職員が対話をして、アウトプットするものを高めていくものになると想定しています。

なぜこれを入れるかというと、町民ワークショップや町民説明会では特に来られる方が少ないですし、年代に偏りが出してしまうので、職員とAIが対話して、職員が考えたことを町民の方たちなどが受け入れられるものなのかどうなのかということの検証をしながらやっていきます。そのような形でAIの活用を考えています。

**【山崎委員長】**

それは外部からもアクセスできる形になるのでしょうか。

【杉崎資産経営課長】

いえ、中の職員だけです。

【山崎委員長】

そうですか。A I の導入は、他の自治体で実績はこれまでであるのでしょうか。

【杉崎資産経営課長】

こういった形での導入はないようです。仕事上、作文や資料の要約というのはA I を使用する場面はありますが、こういった形で対話をして、何か新たなアウトプットを求めるといのは、初めてかと思います。

議会でも少し話したのですが、私は最近、インターネットで何か購入するときに、少し悩んだらA I にどうなのと聞いて、後ろから肩をポンと押してもらおうというのがよくあります。それに少し近いような形です。相手は機械ですし、忖度がない意見が出てきますので、素直な意見を言ってくれるところも期待していて、人間だとなかなか言いにくいようなことでも、A I が言ってくれるのを期待して、質の高いものを目指していこうと思っています。

【山崎委員長】

学習させる情報そのものをどういう形で提供していくかですね。

基本構想とか基本計画までA I のほうで提言していくとか、そこまではないですね。

【杉崎資産経営課長】

そこまではないです。

42 ページの図でいくと、令和 10 年度以降に色々な建物の基本構想や基本計画をつくることにしています。令和 10 年度以降、業者に委託を出すことで基本構想や基本計画は進んでいくものですが、そもそもそこでどうしたいのというのが、やっぱり人間が考えないといけないと思います。コンセプトやイメージ図をつくり、それに基づく基本構想・基本計画が必要になってきますので、これを8年度、9年度にかけて創っていく内容になっています。

先ほど生成A I の話が出ましたけれども、議論のファシリテートをするに当たって、当初は職員、例えば私のような管理職がファシリテート

することを考えたのですが、素人ですし、マーケティング思考に慣れていないので、そこはプロの方をお願いして、マーケティングの専門家にファシリテートして頂く予定です。

**【山崎委員長】**

学校施設や集会所の再編も含めて、どういう形で複合化をするか。相乗効果が出てくると非常にいいわけですがけれども、過去の委員会の中でも、集会所は特に地域で独立して運営したいというような意向もあるかと思えます。そして今後6校をどういう形で複合化するのか。地域の事情はそれぞれあると思えますので、学校側の意向や希望、こうありたいという意見もあると思えますし、地域の自治会はそれぞれの意向があるかなと思えますが、それぞれの立場で皆さん参画していただいて、それにA Iが関わる、そのような形ですかね。

**【杉崎資産経営課長】**

今のお話は町民ワークショップでしょうか。

**【山崎委員長】**

町民ワークショップもそうですし、それから、職員ワーキンググループの場合は、別でそれぞれ独立してやられるわけですかね。

**【杉崎資産経営課長】**

まず、令和8年度に実施する職員ワーキンググループは、基本的には相当先の将来の話をテーマとしますので、できれば20代、30代の若手職員に入ってもらおうと考えています。プラスで管理職級がつかないといけないかと思えますので、大体1グループ4人で、学校が6個ありますから6グループ作り、それぞれのグループごとにありたい姿を考えてもらえればいいなかと考えています。

町民ワークショップの方は、まだ募集候補は考えていないのですが、地域によってばらつきがあると思えますので、今のところ南中北の3エリアに分けて行う予定です。

**【山崎委員長】**

ワークショップを行うことは、大変良いことだと思いますが、ワークショップをやるための準備として、骨格づくりがすごく大事になるかなと思えます。基本計画や基本構想は、規模や機能をどういう形で設定し

ていくか。人口推計に基づいた、クラス数の推計や施設の面積を出し、どのような機能を入れるか。例えば特別支援学級が今、地域でニーズがかなり高まっているのをどういうふうに入れていくかなど、平塚市でも議論がありました。インクルーシブな教育をどうするかなど、色々な議論があると思いますが、ワークショップをやる前段階での議論すべき骨子の部分を庁内の若手職員で骨子づくりをしていくという感じなのではないでしょうか。

**【杉崎資産経営課長】**

基本構想・基本計画の前段階となるイメージ図や、ここの学校を建て替えるときにはこういった施設にしたい、こういうものが欲しいというものを言語化する、これが職員ワーキンググループと町民ワークショップの目的になっています。ハコモノを造るのが目的ではなく、何かそこで実現したいもの的手段としてハコモノがあるべきですから、目的を言語化してイメージ図をつくるということです。

**【茅野委員】**

庁内で職員ワーキンググループをつくって、それが恐らくベースになって町民ワークショップへと移行してというお話だと、今のお話をお聞きました。もう言わずもがな、老婆心の話になってしまうかもしれませんが、若手職員でやってもらうというのは大いにいいことだと思います。自分の職員としての寿命よりも建物寿命の方が長いので、まさに20代、30代の職員でやってもらうというのは大変に良い話だと思います。また、AIの活用について、私も今仕事でAIを使っております、まず見落としがないですし、思い込みもないです。しかも、「お金をかけないと駄目だよ」と発言しようと思っていたのですが、今の課長のお話で、お金もきちんとかけて業者選定から入ることなので、これも安心しました。

あとは、今、委員長も言われたように、AIに何を読み込ませるかです。気になったのは、町の持っているデータ、これは当然です。ですが、町が持っていないデータをどこまで読み込ませるかです。特に複合化に関して、1つ2つはデータとして最新事例の読み込ませが絶対必要です。

最終的には人間の判断になりますので、前から言っているように、20代、30代の若手職員に、ぜひ先進事例の現地調査を予算と日程を取ってやってもらってください。そうしないと、AIと問答するものが自分

自身に形成されないので、A Iが言ってきたことを、ああ、そうかで終わってしまいます。A Iというのは、あくまでも下調べをしてくれる非常に優秀なチーム員です。けれども、どこへ導くか、どう切り捨てるかは人がやっていかなければなりません。特に今回は全部で6校実施しますので、それぞれの学校の個性も必要ですし、全く同じものを6つ造ることでは意味がないので、それぞれの学校の複合化で地域性を持たせていくということになります。そうなりますと、この学校にはこれは要らない、この学校はこれに面積を多く使う、こういった指示をしていくのは人間なので、そのためにも先進事例を見てもらいたいと思います。

もう一つ、これも前も申し上げたのですが、維持管理です。サステナブルに考えたときに、建築にかかるコストよりもランニングコストをどう考えていくかが極めて重要になってきます。先進事例を見ていくと、こういう使い方をするはずだったのが、現実には使えないというケースが幾つもあります。また、維持管理費がかかり過ぎてしまって、この機能が使えないという建築物もあります。A Iはこの辺も得意ですから、維持管理費を常に意識させながら仕事をさせてください。そうすると、かなりいいものができてくるのではないかなと、大変楽しみになってきます。A Iはパースも描けますので、どんどん描かせていくと面白いものが出てくると思いますよ。

繰り返しになりますが、使うのは人間なので、これが良いか悪いかを判断するのは人間です。けれども、こういうのが欲しいといったときに、人間が見落としているものをちゃんと出してくれる、これがA Iの大変いいところだと思いますので、令和8年度のこの事業に大変期待しています。

さらに、1回のワーキンググループ2・3時間、5回というのは、多分これでは終わらないと思うので、半日単位、あるいは1日単位ぐらいで部屋を用意して、集中できるような仕事環境をつくってあげないと、持ち帰り、あるいは成果が出ないということになりかねません。ここは最初から多めの時間をぜひ取ってあげてください。以上です。

#### 【山崎委員長】

ありがとうございます。非常に貴重なご意見を包括的にお話しいただいたと思います。

私も今の茅野委員の意見の中で、特に学校施設だけではないのですが、私は公共建築賞の関東地区の審査委員長を15年ぐらいやっておりまして、現地審査で複合化事例もたくさんあって見えています。公共建築

の雑誌にも何回か書かせていただいたのですが、応募者側は複合化という形で言っていますが、実態として複数現場に行ってお話を聞いていると、これは本当のいい複合化の事例になっているなという事例はそんなに多くないと思っています。かなり辛口のコメントを雑誌でも書いていますが、その施設に対する愛着を持って、自分の管轄する部門以外のことも含めて相乗効果をきちんと見計らって、機能に気合を入れて管理をしてしまいがちですけれども、何より企画の段階から複合化の視点をかなりしっかり持っていないと、どうもうまくいかないということを強く感じています。

ですから、複合化といいながら、実際には合築されている状態で、ほとんど無関係で、行っても閑散としているところが結構あります。面積案分でお掃除の分配を分けてやっていて、結局、運営上もあまりうまくいっていません。特に公共施設の場合は管轄がどうなるかという問題があって、そうなりがちなのです。ですから、そういう意味でも真の意味で複合化、特に学校は、色々な意味でそこに人が集まって、想定以上の効果が我が学校に起こり得るということが地域の力にもなるかと思しますので、特に若い方の職員ワーキンググループではそういうことを一生懸命意識していただきたいです。

それから、茅野委員が言われたように、先進事例、現場に行ってお話を聞くことはとても大事なことだと思います。雑誌で発表される内容には悪いことはあまり書いていません。現場に行くと、うまくいっていないこともたくさん耳に入ってきます。いい事例を見つけるのがなかなか大変ですが、それもAIで情報を得るなど、ぜひとも評判のいいものを見つけて、皆さんと一緒に議論していただきたいと思っています。

#### 【茅野委員】

建設されてすぐではなく、何年か使い込んでみて、多少の不具合が見えてくるといって何年ぐらい経過してからでしょうか。

#### 【山崎委員長】

公共建築の審査では、3年以上経ってからです。色々な作品賞でしたら、竣工後すぐ審査するのですが、3年や5年経つと、だんだん劣化してくるので、設計者側は竣工直後に審査していただきたい。ただ、公共建築賞は、数ある賞の中で唯一、設計者、施工者、そして利用する運営者サイド、全てがきちんとした形で審査の対象になります。つまり、愛情を持ってずっと維持管理して、想定以上によく使われている。こんな

はずではなかったということが、起きたりもしますけれども、少なくとも3年以上たってから利用の実態をきちんと聞いて実態評価をします。そこで、ユーザー側のいい評判や意見が聞けるとすごくいいと思いをしますけれども、そうではないケースもかなりあります。有名建築家が設計したもので、雑誌にはいいことしか書いていないけれども、実際に行ったら、これはひどいなというのがあります。

**【茅野委員】**

建物を建てた後の維持管理の手法ですが、指定管理にしてもかなり重要になってくると思います。どういう手法で維持管理をさせたほうがいいのか。例えば電球が切れたから替える、これを職員がやるのか、業者がやるのか、どのタイミングでやるのか。こういったところも、実際に施設を使い出すとかなり問題になってきます。複合施設ですと予算がみんな違います。教育委員会予算なのか、福祉か。その部分もぜひ現場へ行って話を聞き、維持管理体制と建物に関しては全部まとめて指定管理で出しているのか、それができるのかできないのかも含めて見ていく必要があるかと思います。そういったことができる、実際に使っている人の事務が楽になります。学校の先生は教育に専念できます。そこまで職員の皆さんが突っ込んで聞いて、見てきてもらえたらと思います。以上です。

**【山崎委員長】**

そうですね。複合化の視点は複合化することによって、学校現場の先生方の管理運営が楽になる形にしないと、現場の先生方にとっては、複合化すればするほど大変なのではないかという意識を持たれては困ると思います。特に共用部分の管理は本当に難しいです。部署が違っていると、ここはメンテナンス予算があつてきれいになるけれども、片一方は汚いという、そんな現象が起きかねません。

**【茅野委員】**

共用部分こそが複合施設のいいところで、子供たちが使い、おじいちゃんたちが使い、障がいのある方も使えるよう設計上配慮していくのはいいのですが、どう管理していくのかは非常に難しいところです。

**【山崎委員長】**

「コモン」と我々がよく言いますけれども、設計の場合はコモンの空

間をしっかり確保する。専用部分に面積を取られてしまって、共用部分がどんどん小さくなるということが起こりかねません。コモンの空間は本当に大事な空間なので、維持管理も含めてそこを守るということは、豊かさにつながると思います。うまくいっている複合化の例というのは、コモンの空間が見事に維持管理されています。

**【茅野委員】**

少し悩み事がある子供たちがそこへ行ったら、教員ではなく、おじいちゃん、おばあちゃんたちが来ていて、一緒に遊ぶ。それで何か吹っ切れるとか、こういった何とも言えないその空間をどうつくっていくか、どの位置なのか、どう維持管理していくか、ぜひ検討していただきたい。

**【高橋委員】**

行政は建物を建てるというハード面に目が行ってしまいやすいですが、その運営の仕方、要するにソフトの面は意外と議論を忘れがちなところですね。

**【山崎委員長】**

コモンを大事な場所だと思うのか、自分たちの領域以外のことは知らないというのか。1+1が2以上になるというのは、自分たちの持っている1の部分が $+\alpha$ で相乗効果として出てきます。コモンの空間や他の機能まで自分たちで共有できるというのは、1+1が2以上の機能として発揮しないといけないと思いますが、ならないケースもあります。

**【茅野委員】**

例えば午前中は子供たちがいて、午後からはおじいちゃんおばあちゃんがいるとなれば、その同じ空間を使うことでさらにいい効果を生み出すと承知しています。繰り返しになりますけれども、予算をどう仕分けるか、結局ハコモノは複合化できても予算が複合化できていないと動かない。維持管理をする人も含めて複合化してぜひいいものを造っていただきたいです。

ちなみに、ゆとりの空間や「遊び」の空間みたいなものを、設計時に用意しておくというのはいり得ることなのですか。

**【山崎委員長】**

そうですね。余裕があるスペースとして、例えば学校だと多目的スペ

ースというのがよくあります。それを部屋として認識するのか、または開いた状態で、コモンの空間として多目的スペースをつけるという考え方もあります。要するに、コモンのスペースの面積をどのように担保するかというのは、計画や構想の段階でしっかり考えておかないといけません。この場合だと、多目的スペースを部屋として確保するのではなくて、きちんとした形で共用空間の中に入れていくというやり方がよくあります。例えば保健センターのときもそうだったと思いますが、会議室をブラウジングのような形で開いて、会議室で使うとき以外はコモンの空間としてラウンジ的に使えるようにします。それぞれの部屋が有機的にデッドな空間になりません。私たちはよくデッドな空間と呼び、これは使われないう最たるもので、利用率と直結するわけです。空いているときには自由に使えるような場所を造り、公共施設の中でも、利用者が居心地のいい場所があるというのが望ましいのではないかなと感じています。居心地のいい場所は中高生も集まりますから、予約しないと使えないような状態ではなくて、何となくそこに立ち寄って、落ち着けるような場所、公共施設で人のたたずまいがある豊かな風景というのは、そういう形で形成されているような感じがします。そういった事例を幾つも見ている、これはいいなと感じる部分はたくさんあります。

#### 【森委員】

私もそのような思いを持っていましたが、公共施設の再編という部分は、現代の人口減少社会の中で、公共施設をどうしていくかという大事な点だと思います。地域によってはかなりそれが動いていて、例えば一之宮の周辺では寒川高校が廃校になりますが、今後どうするのかはまだ見えていません。その場所にコミュニティセンターの様なものを設置して、消防署から公民館などの機能を入れたセンターを造っていくということも可能ではないですか。

公共事業の再編で、最初の位置づけの中に都市計画が入っていないので、都市計画も入れておくべきかと思います。寒川町内全体の都市計画の関わりは大きな部分ですから、そういうところも入れておくべきかと思っています。

A I の関係というのは、A I を導入して住民の意見を聞いたり、職員の意味を聞いたりということだと、例えば首長の考え方とか、上部職員の意味が一切入ってこないものなのですか。全部A I で任せてしまうと、寒川町のステータスがなくなってしまうのではないかなと危惧している部分があります。茅野先生も言われたように、先進地を視察した

ほうがいいのではないかと。ほかの市町村ではそういう取組を現実的にしている部分もあります。私も数十年前に行った市の庁舎が木造で、その出入りする階段は、人の歩いた部分がもうへこんでいました。それでも使っているというような、これは維持管理が良い悪いではなく、そのような部分を見たこともありますので、そういった部分を含めて議論をしていただければありがたいなと思います。

**【山崎委員長】**

今の意見は、首長さんみたいな、その地域や地区の意見をA Iにも積極的に反映をしてほしいという意向だということでしょうか。

**【森委員】**

逆に言えば、首長さんがいなくても、全部A Iでやってもらってもいいという時代になってきてしまうのかなと危惧していますが、いかがでしょうか。

**【杉崎資産経営課長】**

ご心配だとは思いますが、決めるのは最後は人間です。意識決定するのは組織で決めるわけですから、そこはご心配なさらず、大丈夫かなと思います。

A Iの関係のお話が出ましたが、町が持っている各種データを読み込ませてという私の説明が悪かったのですが、読み込ませるデータは町が持っているデータだけではありません。応募してくれる企業さんが持っている独自のデータと町のデータを合わせることになります。企業さんがどういった情報を持っているのかというのは、プロポーザルの審査の中で見ていく形になります。ですので、コアな町民とか、町のことしか知らないA Iと会話するわけではありません。

あと、茅野委員より、ワーキングに参加する若手職員にも先進事例を見せたほうがいいのかと、指摘ありがとうございます。その視点は無かったです。予算の確保は私の仕事になりますので、努力したいと思っています。

ちょうど今、この資産経営課のメンバーで、視察先というと大げさですが、仕事として街歩きする場合どこがよいかをピックアップしているところです。この公共施設再編計画に関しては、議会の公共施設再編整備特別委員会がありまして、そこから視察先を探してというオーダーが出ています。先ほど委員長から公共施設でもいいところがあるという話

がありましたが、公共施設で今回のイメージと合うところがないという気がしています。というのは、先進事例としてイメージ図やコンセプトがはっきりしていて、それに向けてうまく進んだ事例を見たいのですが、1つの建物なのに縦割りになっていたということがあると思います。そういった問題は、建物を建てるのが目的だったから最終的にそういう結果になっている、今までのやり方が悪かったという話であって、その地域で何が欲しいかを明確にして、それをゴールにして進んでいけば、あまり起こらないのかなと思っています。それがそのまま進み、後になって予算はどこが持つかなど、なっていると思うので、ゴールを明確にして進むことで、少しは解消になるのと思っています。

実際に、1つの建物の光熱費なのに、支出の伝票が3枚、4枚あるとか、そういったことがあります。今は職員がいますから、やってもいいと思いますが、これから職員が減っていくので、人材不足が深刻にならないようにしていけたらいいなと思っています。

視察先については、議会からも言われていますが、公共施設に限らず民間の施設でも、明確なビジョンとコンセプトがあって、そこに向かって成功した事例を見て、仕事として街歩きも含めて見に行けたらいいと思っていますし、若手ワーキングのメンバーも連れていけるといいと思っています。

私は個人的に民間施設の方が相当うまくやっているなと思っているのが、個人的な話になりますけれども、野球が好きで、北海道のエスコンフィールドを見てきました。シーズンオフだったので、人は少なかったのですが、雪があるシーズンオフでも何千人と来ていました。人の動線を最優先で造った施設ですので、相当お金はかかっていますが、とても過ごしやすいです。野球がないシーズンですので、無料で入ることができ、ただ目的無く来て、ベンチに座り本を読んで、目的無く過ごしても良い施設になっていますので、すごくいいところだなと思いました。

そういう意味では、公共のみでなく民間施設も含めて、ハコモノを造るのが目的ではなく、どうありたいかのための手段としてハコモノを造るのですから、場合によってハコモノは要らないなという話も出るかもしれません。ハコモノを造るのであれば、目的を明確にしてやっていきたいなと思っています。

#### 【茅野委員】

見に行くのは、複合施設に焦点を絞らないほうが面白いかもしれません。例えば学校の図書館をオープンに作っておいて、おじいちゃん、お

ばあちゃんも子供たちも使えるようになっていたりするところもあると聞きますが、受験勉強をしようとしている高校生にとっては、本は要らないけれども、静かなスペースを求めていると思います。これも2通りあって、飲食できるスペースが欲しいとか、隣としゃべりながらやりたいとか、私が行っている大学の図書館も、下のフロアは飲食やおしゃべりオーケーで畳敷きスペースもあり、寝転がりながら、会話をしながら本を使えるが、上のフロアに行くと、昔ながらのオープンな図書室になっていて、それから、個室もあり、これは予約制で、サブゼミをしても騒がしくしても大丈夫。そういう単体の施設を見ながら知恵を見ていくというのがあるかなと思います。前も申し上げたかもしれませんが、藤沢市役所は行きましたか？

**【杉崎資産経営課長】**

行きました。高校生が沢山いました。

**【茅野委員】**

高校生が議会棟のロビーで受験勉強しているんです。眺めは良く、お茶は飲んで静か。議会が始まる時は高校生には出て行ってもらうのですかと聞いたら、いや、議会の議員さんが出入りするのも全部見えていますと。1階のロビーはコンビニがあるので、そこの横は高校生が食べながら勉強している。こうした市役所を造ったときの狙いとは全然違う使い方をしています。駅近で高校生が集まる市役所、いいと思いませんか？

**【杉崎資産経営課長】**

良いですね。

**【山崎委員長】**

高崎に芸術劇場があって、中高生がホワイエの空間、無料のラウンジ的な空間を勉強だとかコミュニケーションの場で使っています。中高生の居場所として機能はしていますが、その奥にがらんとした大きなホワイエがあり、もったいないなど。市民がそこに集まっている写真は広報用に使っていますが、実態は、劇場を使っていないと、そこを開放することが誰もできないのです。劇場のホールまでは入れなくても、そこが豊かなホワイエ空間なのに。そういうホワイエ空間は全国にたくさんありますけれども、もったいない。色々な方が劇場のホワイエ空間はどん

どん開放すべきとおっしゃっていますが、管理運営で問題があるのか、なかなかそれが進まない実態があります。

維持管理が大きな課題としてあると思いますが、そのような発想が、特にこれからの若い人たちには大事ではないかという気がしています。ぜひとも先進事例、日本に限らず海外でも良いと思うものを集めていただいて、導入されるのもいいと思います。

#### 【山口委員】

別件で。先ほどの町民のワークショップの件で、再来年度になりますけれども、立場上、公民館とか地域集会所は住民が使う建物ですので、私は一番気になっています。それで、庁内の職員のワーキンググループは、関連する各課の職員ということで、それなりの知識を持った職員がそこへ入ってくると思いますが、町民ワークショップに関しては、参加者を検討する際に、公民館や地域集会所を使っている方をぜひ入れてほしいと思っています。といっても、庁内職員は若手、20代、30代ということですが、公民館、地域集会所は60代後半から70代の方が中心ですので、若手ということにはならないと思いますが、ぜひ検討をしていただいて、十何年後にどうなるか分かりませんが、声を吸い上げてほしいと思っています。

また、南中北の3エリアで分かれて実施するということですが、最終的に1つにまとめていくのかなというところも気になります。

#### 【臼井委員】

複合化も含めて、学校が母体になる可能性が大きいと思うと、よりよいものにするため、学校の1日の子どもたちの動きや流れ、先生たちの動きを、1日や数日ではなく、年間を通して学校の状況を把握していただくのは本当に必要だと思います。そうすると、別の公共施設を複合化した時のイメージとか、そういったものもすごく湧くと思うので。ただ、それは単発ではなくて、例えば朝から放課後の夕方以降の時間までを度々知っていただくということがとても大事なかなと思ったので、そんなことも考えていただけるといいと思いました。

#### 【山崎委員長】

個人的な経験ですが、改築のときは必ず何日も、朝から晩まで色々な子供たちの動きや子供の持ち物調査をします。どれぐらいのものが学校の中に置かれているかも。タイムスタディーという形で、実態を調べる

のもすごく大事だと思いますし、職員の方の体験入学みたいな感じになりそうですね。

**【臼井委員】**

ぜひ先生たちや学校職員とコミュニケーションをしていく中で、それこそAIに入れる情報ですとか、とても貴重なものも得られると思うので。

**【山崎委員長】**

関連して、この委員会とは別の小中学校の委員会するとき、小中一貫というような話がありましたが、一体的な整備ができないため、分離型の小中一貫校でやらざるを得ない。ただ、分離型で小中連携がうまくできている事例もかなり少ないと思います。小中連携のモデル事例も含めて、色々アンテナを張っていただきたいなと感じています。

**【杉崎資産経営課長】**

職員のワーキングで、先ほど茅野委員から各2、3時間では足りないのではないかというお話がありました。実は私たちも思っていて、当然、宿題は出ると思いますし、1回目の前に宿題が出るぐらいの勢いかと思っています。

その中で、先進地の見学や、臼井委員もおっしゃったような学校の1日の様子を見てくるというのは、この二、三時間ではないところでインプットの時間として設けないといけないと思っています。当然、資産経営課ではない職員に参加いただくこととなりますので、若手職員が所属する管理者から同意を得る必要があります、そこは私がこの役目を負わないといけないのかなと思いました。

また、山口委員がおっしゃった公民館や集会所利用者のワークショップへの参加は考えています。恐らく、ワークショップをやる場合に、利用者の方が多くなると思っています。過去のワークショップでも、町民説明会でも、年齢層がどうしても偏ってしまいます。ですので、自然とそうなる可能性はあると思っています。ただ、そういった方々も、AIとの対話を通じて新たな気づきを得ていただけるといいかなと思っています。

議会にも情報提供した話ですが、京都市の御池中学校という、PFIで整備し、老人福祉施設と保育園と中学校が一体となり、中学生が本の読み聞かせで保育園に行つて職業体験や、お年寄りの方々とコラボダン

スをするなど、文科省のホームページでも紹介されていました。PFIで整備して15年以上経ちましたので、今は直営に戻しているようですが、御池通というメイン通りの目の前にあるということで、レストランが複合化施設として存在していて、とてもVFMが出たという好事例の学校でした。議会で、現地に行っているのでも、そういった事例も参考にしていきたいです。

**【山崎委員長】**

文科省のホームページでも小学校、中学校、複合化の事例もありますが、調査研究協力者会議の方でも報告書が出ていますので、それも参考に、事例や、実際に現場に行って、どうなのか確認していただくと、公開されている情報と若干違うようなことはあり得ると思います。若い方の感性でどんどん見て、聞いて、参考にさせていただくとよろしいと思います。

**【臼井委員】**

現状として学校は今、門扉を昼間は閉めたり、昇降口の扉を閉めたりして、防犯的に対処して非常に気を遣っている状況があります。そこに複合を考えると、学校側も、もしかしたら発想の転換を今後していけないといけない部分もあるかもしれません。面と向かってというよりも、一緒に考えていくことも、とても必要かと思いました。

**【山崎委員長】**

幕張に打瀬小学校という塀のない有名な学校があります。私も何度か現場に行きましたが、塀がないので、街路型で色々な人たちが中に入れるように想定して造ってあります。どのように防犯性能を確保しているかと聞いたら、地域の人たちが必ず常駐をして、常に周りから学校を見守っているということを徹底してやっているようです。学校は2階建てですが、周りに高層の集合住宅が建っています。学校の周りで見かけない車が止まっていると、すぐ学校に電話してくるらしいのです。高層棟からずっとみんな監視してくれる。自分の子供たちが通っている学校で、卒業後もずっとそこを見守っている。愛情を持って監視をしてくれる。見かけない人がいると、どちらさまですかと声をかけてくれる。警備員や防犯カメラなどの機械でセキュリティを確保するというのが一般的に多いですが、そうではないケースもあると。

大阪の池田小学校の事件が起こる前には、パティオス（＝千葉市にあ

る大規模マンション群)は街路型ですから、街路に沿って人のアクティビティーを出し、学校の中にもコンコース状の空間を入れて、人が入れるように、なっています。その代わり、建物の下にピロティーがあつて、そこは外部のギャラリーになっています。強制的に人が入れないようにすることもできると思いますが、それをあえてせずに、コモンの空間をきちんとした形でセキュリティーコントロールしていくという、防犯環境設計、CPTED(=環境設計による犯罪予防という考えのこと)という考え方があり、視線を通して死角をつくらないということが一番大事だとされています。大阪の池田小学校が改築された後に開放性の高い学校に改築されたという例もあります。

また、視線の通らない場所が建物の外側に結構発生している例もあります。それは非常に問題で、建物の中だけではなくて外側にデッドな部分ある学校というのは非常にまずいと感じていて、学校のブロックプラン(=建物や施設の間取りを「塊=ブロック」として捉え、構造やコストを考えていくこと)そのもの自身をきちんと評価、診断して、防犯の評価をちゃんとすべきです。晩年、私もそのような研究したことがありますが、デッドスペースのある学校は全国にたくさんあります。開かれた学校、さきほどの打瀬小学校は極端な例ですが、ブロックプランや配置そのものから防犯性能をきちんと評価するという発想が必要です。設計者もかなり辛口のコメントをすることがあります。

#### 【茅野委員】

複合化したときに、おじいちゃん、おばあちゃんが毎朝お茶屋コーヒーを飲みに来るようなコーナーを造ったら、いつも誰かが溜まっていてくれますね。寒川ですと、おそらく歩いている人で知らない人がいるというのが分かるかと思います。こういうところが寒川のいいところだと思います。

#### 【山崎委員長】

私たちが空間の質を分析するときに、パブリックとプライベートという横軸があります。それと同時に、縦軸にコモンとパーソナルという軸を入れるのですが、実はプライベートなコモン、これはメンバーズオンリーの空間ですがこの領域は少ないです。それから、パブリックのパーソナルという空間は、図書館のキャレルですとか、公共の空間で1人の居心地のいい場所というのは昔はありませんでしたが、最近はそういった場所が色々な形でできています。駅にも有料で小さなパーソナルブー

	<p>スのようなものができて、私も時々そのメンバーに入って、使用しています。集合住宅だとメンバーズオンリーのコモンの空間なんかもそうだと思います。それから、パブリックなパーソナル、この2つがこれからの公共空間の中にもどんどん出現してきていいのではないかなと感じています。</p> <p><b>【山崎委員長】</b>      皆さん、予定時間になりましたけれども今日の議題に対して、他に質疑はないでしょうか。もし他に何かあればお聞きしたいと思います。特にないようでしたら、次の話題に移ります。</p> <p><b>○その他</b>  <b>【山崎委員長】</b>      その他に何か皆さんから発言されたいことはありますか。皆さんから意見がないようでしたら、事務局から何かありますか。</p> <p><b>【杉崎資産経営課長】</b>      特にありません。</p> <p><b>○閉会</b>  <b>【山崎委員長】</b>      それでは、最後になりますが、次第4の「閉会」に移らせていただきます。      本日は、委員の皆さまのご協力によりまして、本年度の最後となります、第2回目の委員会を無事に終えることができました。ありがとうございました。      それでは、以上をもちまして本日の会議を終了と致します。      お疲れ様でございました。</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料1：寒川町公共施設等総合管理計画の進捗状況報告について          資料2：公共施設再編計画進行管理票          資料3：公共施設再編計画進行状況管理シート</p>
<p>議事録承認委員及び          議事録確定年月日</p>	<p>茅野 英一 (令和8年4月28日確定)</p>